



ボディカラーとコーデしたグランシーカーCCX (19×10J) を絶妙なロワードで仕上げた西サンのカローラ・スポーツ。純正風にリアフェンダーを叩き出し、ポイントにブラックを取り込むハイセンスさにも注目！



シンプル&クリーンさを際立たせるスマートぶりが心地よかった藤本サンのアンザ・ワゴン。ジースト ST3 (19×9.5J) 越しのブレーキシステムに加え、広島・ワークス製作トランクオーディオを積載していた。



全身をワンオフボディで仕上げた高畠サンの36スカイライン・クーペ。あえてイマドキではないエッジの効いた造形をグリーン×ブラックで塗り分けた気合の1台だ。ホイールには、エモーションCR極 (20×9.5J / 11.5J) をセレクト。刺激的な後ろ姿に視線が集中していたゾ！



本気レーシングに進化した中西サンのNAロードスター。ジェットストリームのワンオフボディに、強烈な効果のあるバーチカルGTウイングをプラス。マフラーはバイク用をベースにワンオフで製作。サーキットも走れて置いても魅せる1台が完成した。



完全再現するハイクオリティなレプリカ！

NZドリフター、マッド・マイクのRX-8をほぼ完璧に再現した安原サン。オリジナル同様、後期フェイス&インナーブラック仕様ヘッドライト、ナンバー隠しを完全再現。ロケットバニーによるワイドボディに対し、VS-XV (19×10.5J / 13J) をマウント。内装も含め、完成度の高いレプリカだ！



エモーションCR極 (15×8J) をバツバツに取り込んだ激低ラテが登場！注目はスーパーGTをモチーフにした後ろ姿。バンパーをカットして伸びるマフラーの取り回しに加え、下側から伸びるバーチカルウイングがレーシングカーを彷彿させる。



125系ハイラックス前期型に対し、エモーションCR SUV (20×9J) に、モンスター・トレーニングリッパー (265/50) をセレクトした細身サン。オバフェンは海外純正TRD製で、荷台にはTRD純正ロールバーを装着。

## MAKER & SHOP

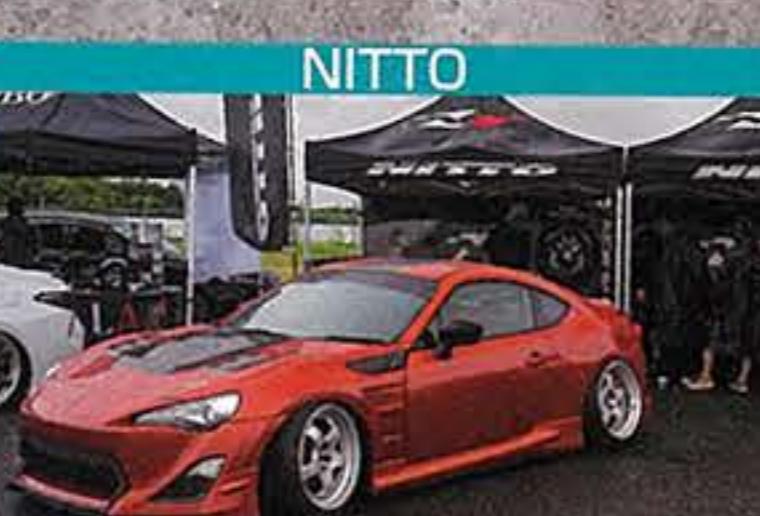
ワークホイールやニットータイヤをはじめ、数々のメーカーやショップのブースも並んでいた。最新パーツやデモカーがディスプレイされているとあって、多くの来場者が興味津々にブースをのぞいていたゾ！



YSR



TONE



NITTO



WORK



Y'z ONE



GOODGUN INTERNATIONAL



LANBO



IDEAL



WORKのホイールオンリーの  
シャコタンマシンが舞洲に集合！

## WORK WHEELS JACK

■9月23日 大阪・舞洲スポーツアイランド空の広場

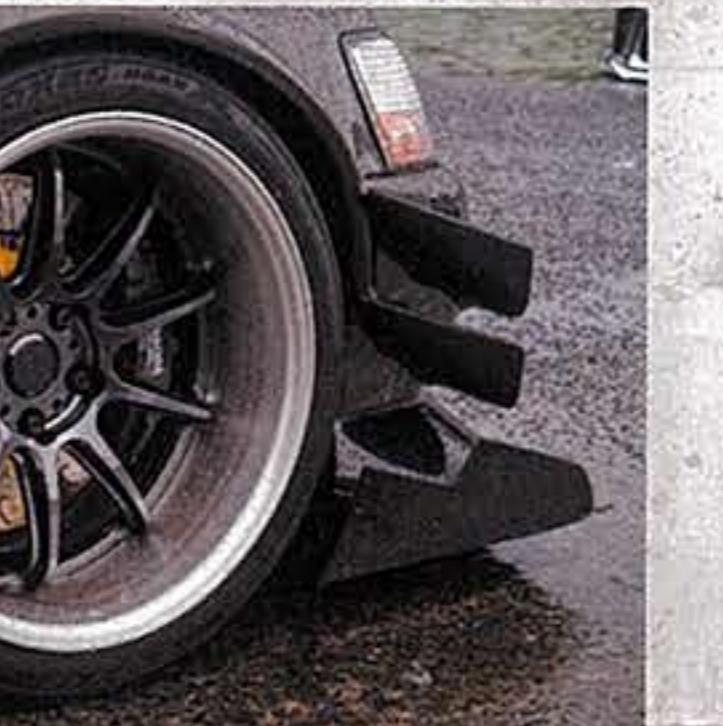
■主催／グッドガムインターナショナル 天気／ PHOTO／浦野浩之 REPORT／岡本晃



“現代のワイスビ”をテーマに、日々カスタマイズを施す新野サンのランボVII。ボルテックス・サーキットver.に、エモーションZR10 2P (18×12J) を投入する。ボンネットを開ければ、2.2l化したパワードエンジンが君臨する非の打ち所がない1台だ。



2.2l化でさらなる凶暴な走りをゲット！



クラウンRSフェイスを移植した岸田サンのハイエース。苦労の跡を感じさせない完成度の高さに脱帽！マイスターL1 (19×10.5J / 12J) をマウントし、極低車高を可能にしたリアの足回りは、S14シルビアの純正を移植してマルチリンク化している。



激低車高な堀内サンのZ4。326パワーの車高調に、アームはメーガン&ワンオフにより、マイスターM1 (18×10.5J OUT19) を、F11度 / R12.5度でネジ込んでいる。今後はさらなるネガキャンを検討中とか。



イングスのエアロをまったく相澤サンのZ33ロードスター。30mmワイドフェンダーに、ブラック&クリームに仕立てたマイスターS1 (19×9.5J OUT32 / 11.5J OUT58) をマッチングしているゾ。



ワイド&ローぶりが目を引いた上波サンのZ32。足回りはBCR車高調 + 326スプリングを装着し、ランバックLM1 (18×12J / 12.5J) をセット。さらに、軽量フライホイールやラジエーターなど各部をチューンしている。



パンデムのボディキットにバトルエアロのスワンネックを装着した奥原サンの86。エモーションCR2P (18×10.5J / 12J) をマウントする。エンジンは世界10機限定の2.2l仕様。HKSタービンで400馬力を発生する。